

平成29年度事業報告（指定管理事業）

○ 新潟市歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等 216,946,598 円

1 文化事業 20,539,110 円

「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めると共に、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する。」という博物館の設置目的を達成するため、以下の各種事業を行った。

(1) 展示運営更新 82,080 円

人と水の関りをテーマに新潟市の歴史を紹介。学芸員やボランティアによる展示解説を行った。また、川村修就コーナーの展示ケースを6月と1月の2回、展示替えした。

(2) 企画展示事業 7,086,141 円

市民に身近な題材や市民にとって興味深い資料・地域等をテーマとした計4本の企画展を実施した。

① 「え？—近代絵画のわすれもの」展 (1,620,286)

「絵画」や「美術」は、明治初期に西洋思想の影響を受けて生まれた言葉。その理念に当てはまらない何らかの目的をもって描かれた「実用の絵」は生活の中に無数にある。そうした「実用の絵」の歴史的背景を追い、「近代絵画」の死角を探った。

会期中には、「のぞきからくり」の公開組立てや、金井二郎による「絵描き職人による実演とトーク」、当館学芸員による「日本美術の“使い方”」、「近代新潟の“非”美術史」と題する2回の講座を実施した。

開催期間 平成29年4月8日～5月28日 44日間

観覧者数 3,107人（うち有料観覧者 1,824人、無料観覧者 1,283人）

② 「乙女たちの歩み～新潟の女学校と女学生～」展 (2,932,128)

明治32年の高等女学校令発布より、新潟市にも新潟県高等女学校が設置された。本展では新潟の高等女学校の設置や女学生の生活、その後の女学校や女学生を取り巻く制度や環境の変化を紹介しながら、女性をとりまく近代日本の社会を浮かび上がらせた。

会期中は、小山静子（京都大学教授）による特別講演会「男女別学の時代」や、体験プログラム「折り形いろいろ～作法の教本より～」、大人の手芸ワークショップ「女学生の手芸～野ばらのコサージュづくり」などを開催した。また、新潟中央高校地域歴史研究部・新潟青陵高校の有志生徒によるポスターセッション「高校生が読み解くあの頃の流行」をエントランスホールで実施した。

開催期間 平成29年7月15日～9月3日 45日間

観覧者数 4,088人（うち有料観覧者 3,119人、無料観覧者 969人）

③ むかしのくらし展「旅はぼうけん」 (1,512,560)

小学校の単元と連動した企画展。昔と今では、旅の手段や目的、たのしみ方が異なってお

り、それには暮らしの移り変わりが大きく影響している。電気などの動力を用いるようになった時代の旅と、それ以前の旅を展示紹介し、その変化を示した。

会期中は「小田原提灯づくり」や、杵と臼を使った「もちつきー旅のたのしみ茶屋のもち」などのイベントを実施した。

開催期間 平成 29 年 9 月 16 日～11 月 26 日 64 日間

観覧者数 8,304 人（無料観覧者）

④「収蔵品展・新収蔵品展」 (55,296)

「収蔵品展」では、「観光・新潟」をテーマに、明治時代半ば～昭和 30 年代頃までの新潟の観光に関連する写真や絵葉書、地図、観光パンフレットやポスターなどを展示紹介した。

「新収蔵品展」は、平成 29 年度に新たに収蔵した民俗資料・文書資料・メディア資料・美術資料等の中から、80 点を選び展示した。

開催期間 平成 30 年 2 月 10 日～3 月 25 日 37 日間

観覧者数 3,524 人（無料観覧者）

(3) 教育普及事業 357, 223 円

新潟市の歴史文化への市民の関心や興味のニーズに対応するため、ボランティアなどの人的資源や博物館が有するモノや情報を活用して、歴史に関するさまざまなサービスの提供や活動の提案を行った。そのほか、レファレンス用の開架図書を購入した。

① 体験の広場事業

体験の広場の施設や資料を活用し、学芸員とボランティアスタッフ・外部協力者により、小学生や家族連れ・大人等を対象に各種の体験プログラムを計 83 回実施した。

② 博・学連携事業

小学校・中学校の見学に際し展示解説等を行ったほか、職場体験の中学生を受け入れるとともに、地域学習として市内の小中学校へ出向いて授業を行った。また、新潟大学と連携して当館学芸員による寄附講義を開講するとともに、大学生を受入れ、通年および期間集中の館実習を開催した。さらに、同志社大学留学中のドイツチュービンゲン大学の学生をインターンとして受入れた。

③ 講座事業

調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的として、幅広いニーズに対応するための以下の各種講座を開催した。

・博物館講座 全 10 回、古文書入門講座 全 4 回、館長講座 全 4 回など

④ ボランティア事業

敷地ガイドや常設ガイド、体験の広場のプログラムの実施・補助として活動するボランティアを養成するとともに、その活動を支援した。さらに、ボランティア主催の春のボランティアフェスティバルを実施した。その他ボランティアによる自主事業を多数開催した。

(4) 施設普及事業 1, 815, 907 円

博物館の活動を広く市民に知ってもらうため、リーフレットや「博物館ニュース」、年報などの出版物を作成し、新聞・雑誌等を通じて館の広報活動を行うとともに、以下の事業を実施し、博物館の利用推進を図った。

① 地域連携事業の実施

博物館近隣の市民団体や国・県などと共催で、新潟の港や下町のPRを目的に以下の事業を開催した。

堀とさくらのコンサート（4/16）、夕涼みコンサート（8/11）、みなと・しもまち・川まつり（8/20）

② みなとびあファンクラブ

博物館の情報を定期的に会員に向けて提供した。また、会員向けの企画展鑑賞会・まちあるき（阿賀野川河口を歩く・松浜編）・館長バスツアー（「ふたたび古代蒲原郡郷名の遺称地を探る」）・館長講演会・学芸員による講座を実施した。

(5) 調査研究事業 488,430 円

主に企画展示や収蔵品展に関連した調査・研究を実施した。

そのほか、学芸員の専門分野における研究や館活動を通じた資料調査も随時行い、その成果は博物館講座を通じて市民に報告・還元するとともに、主なものを『研究紀要14号』にまとめた。

(6) 資料整理事業 652,487 円

寄贈を受けたり、購入したりした歴史・民俗・美術・図書等の資料を長期的に保存・活用することを目的に、以下の事業を行った。

① 保存環境管理

館蔵資料の長期保存のため、展示室やケースなどの展示施設をはじめ、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校、板井保育園等について、各種の保存環境調査や清掃、防虫対策のためのくん蒸など、IPMに則った各種の保存環境管理を行った。

② 資料収集整理

地域の歴史を語る資料を収集するとともに、資料を管理し活用するために、資料の基礎的データや資料の詳細情報を調査・記録した。

(7) 開港150周年に向けた歴史文化魅力発信事業 10,056,842 円

① 「新潟開港150年史」刊行準備

新潟開港は新潟市の近代の発展に大きな影響を及ぼした。そして、新潟開港150年は港町として歩んできた新潟の存在意義を振り返る大きな契機となる。そして、その基礎資料となる「新潟開港150年史」刊行を平成30年に控え、その準備・編さん作業を行った。

② 「玉と鏡の世界－西安・新潟友好交流特別展」開催準備

平成16年に新潟市歴史博物館で「長安文物秘宝展」を開催したことが縁で、西安博物院と友好提携しており、平成29年に友好提携10周年を迎えた。海外に開かれた博物院を開港に重ね、両館（院）の交流を深め、連携・協働して平成30年度に特別展を開催するための協議・準備を行った。

③ アニメーション映像の制作

開港場としての新潟を子どもにも分かりやすく紹介するアニメーション映像を制作し、館内で上映することで、みなとまちの歴史と文化に触れる機会を提供するとともに、新たな集客や交流人口拡大を図った。

2 文化施設管理受託事業 196, 407, 488 円

歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等管理事業

市民に親しまれる博物館を目指して、利用者へのサービスの向上に努め、歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等の管理運営を行った。なお、旧新潟税関庁舎は耐震補強等改修工事のため平成28年6月から引き続き休館とした。

(1) 歴史博物館管理事業

- ① 博物館本館（常設展示室、企画展示室、ミュージアムシアター、体験の広場、セミナー室、情報ライブラリー等）
- ② 旧第四銀行住吉町支店（応接室、会議室、日本間）
- ③ 屋外施設（広場、堀、園路等）

(2) 旧新潟税関庁舎等管理事業

- ① 旧新潟税関庁舎
- ② 史跡（石段、石積み、石庫等）

(3) 信濃川左岸緑地管理事業

※ 平成29年度歴史博物館入館者数 87, 930 人